

大宰府とは

九州は大陸に面した地域です。古くから海外との交流が行われており、古代日本でも対外交渉の窓口として重要視されました。このため大和朝廷は、外交や軍事の一端を担う役所として、また、西海道（現在の九州）の9つの国、3つの島を管轄する役割のため、「大宰府」を置きました。



梅花の宴 再現シオラマ (大宰府展示館)

大宰府は「遠の朝廷」とも呼ばれ、

朝廷のような機能と施設を備えていました。大野城が置かれた山の麓には、中枢となる政庁がおかれ、ここで政務や儀礼が行われました。ここに長官として赴任した大伴旅人が自らの邸宅で開いた梅花の宴の序文は、令和の元号の典拠になりました。

政庁や諸官司の周りには、都のように基盤目に整備された街（条坊）がありました。歴史書に「天下之一都会」と記されるように、九州・都・海外から人や物の行き来が盛んでした。海外からも使節が来るため、街区のなかに、客館も置かれました。

この大宰府に関わる遺跡は、国の特別史跡大宰府跡に指定されています。

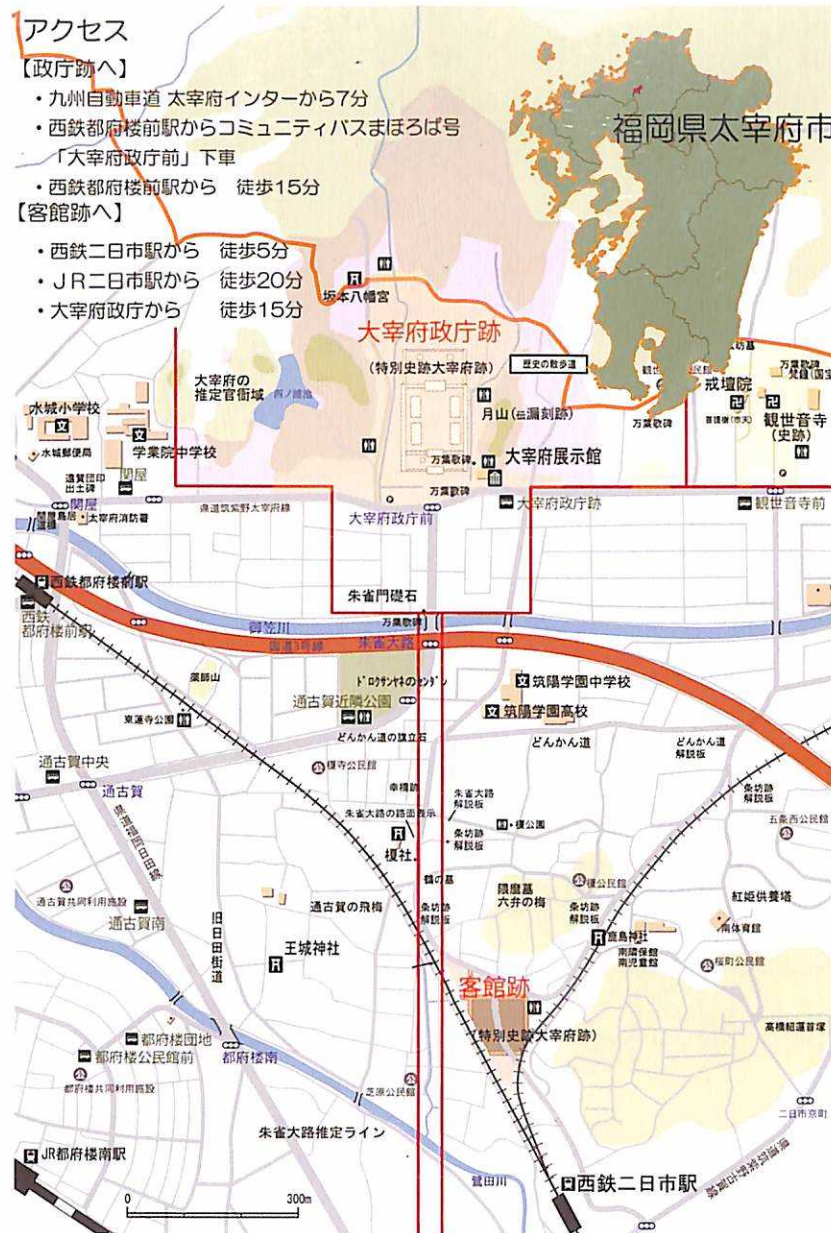
アクセス

【政庁跡へ】

- 九州自動車道 太宰府インターから7分
- 西鉄都府楼前駅からコミュニティバスまほろば号「大宰府政庁前」下車
- 西鉄都府楼前駅から 徒歩15分

【客館跡へ】

- 西鉄二日市駅から 徒歩5分
- JR二日市駅から 徒歩20分
- 大宰府政庁から 徒歩15分



大宰府の史跡シリーズ(大宰府跡)

特別史跡

大宰府跡



大宰府跡に着いたら行ってみよう!!

大宰府跡の顕彰碑



正殿跡には礎石と大宰府跡を顕彰した石碑が建っています。

大宰府展示館



発掘調査で見つかった遺跡の一部が見学できます。

坂本八幡宮



梅花の宴の推定地の一つとして知られています。

朱雀門礎石 (推定)



河川改修工事で発見されました。朱雀門の礎石と考えられています。



特別史跡 大宰府跡

指定日

大正10年(1921年)3月3日(史跡指定)
昭和28年(1953年)3月31日(特別史跡指定)

所在地

福岡県太宰府市坂本三丁目、観世音寺四丁目ほか
325,992.91㎡(2021年3月現在)

管理者

太宰府市

備考

大宰府跡は、「日本遺産」の構成文化財の一つです



日本遺産

古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
<http://www.dazaifu-japan-heritage.jp>



大宰府跡から見てみよう!!

大野城跡



古代の山城です。政庁跡の北に見える四王寺山に665年に築かれました。

基肄城跡



大野城とともに築かれた古代の山城です。佐賀県の基山にあり、政庁跡から南に見えます。

発行：太宰府市教育委員会(文化財課)

〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺1-1-1

tel 092-921-2121(代表) bunkazai@city.dazaifu.lg.jp

発行日：令和3年(2021年)3月31日

大宰府の施設

大宰府は、多くの機構からなる組織でした。現在、関係する部署（所・司）が20ほど知られています。政庁のまわりには、



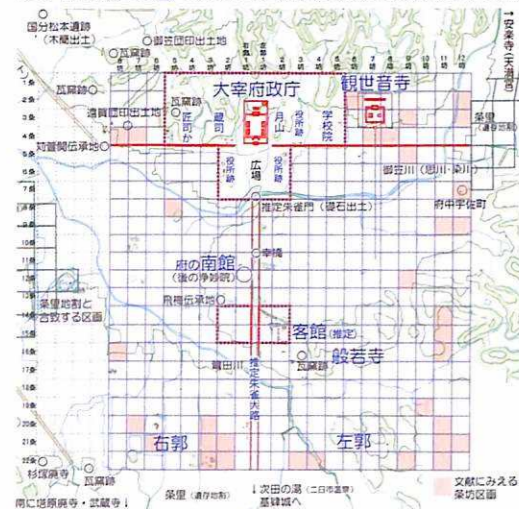
政庁周辺の大宰府跡の各地区

官人たちが勤務していた役所（官衙）が取り囲んでいました。

これらは、朱雀門の北側にあり、その一部が大宰府跡に指定されています。

政庁

大宰府への正式な来訪ルートは、南の朱雀大路から政庁に向かうものでした。このまわりには街があり、官人たちが住んでいました。北の高い位置に見える政庁や官衙の屋根瓦は、左遷され南館で暮らした菅原道真の漢詩にも詠まれています。



大宰府条坊復元図

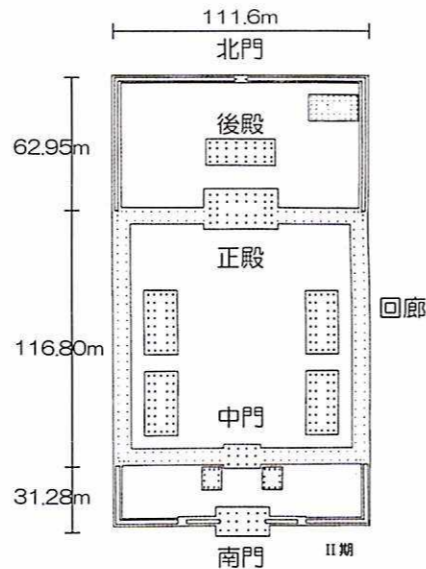


菅原道真



大宰府政庁跡復元模型（九州国立博物館所蔵）

政庁の建物



8世紀初め頃の政庁跡

大宰府の中核である政庁は、築地塀（屋根のついた壁）回廊と（廊下）で囲まれていました。

南門・中門をぬけると、左右に脇殿が2棟ずつ、奥に中心建物である正殿があり、ここで重要な政務・儀礼が行われました。

建物は7世紀後半頃に現れ、8世紀初めに礎石建ちの政庁が建てられました。現在、政庁跡で見ることができる礎石は、10世紀後半以降の建て直しに伴うものです。

出土品

屋根に葺かれた鬼瓦

目は吊り上り、眉間に皺を寄せ、大きく開いた口からは牙がむき出しになっており、憤怒の形相をしています。このように奈良時代の仏像などにみられる写実的な表現と大陸風なモチーフをもった鬼瓦は、大宰府ならではと言えます。



政庁跡出土（九州国立博物館所蔵）

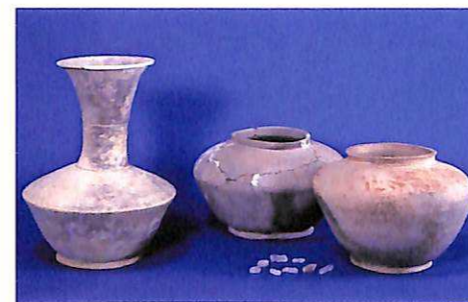
屋根を飾った瓦



政庁跡出土（九州歴史資料館所蔵）

蓮の花をかたどった文様や、唐草文様などで飾られています。

地鎮具



南門・中門出土（九州歴史資料館所蔵）

政庁の建設に先立ち、水晶を入れた土器を、門の下に埋めたものです。土器の形式から8世紀初めのものとわかりました。

蔵司

ここは字名より、西海道諸国から大宰府に届けられた品物を納め、管理した役所です。

政庁跡の西側の丘陵には「蔵司」という字名が残る場所があり、近年の発掘調査で倉庫と考えられる複数の建物跡が見つかりました。以前より知られている礎石建ちの建物についても再検討されています。



蔵司跡の礎石

月山地区官衙

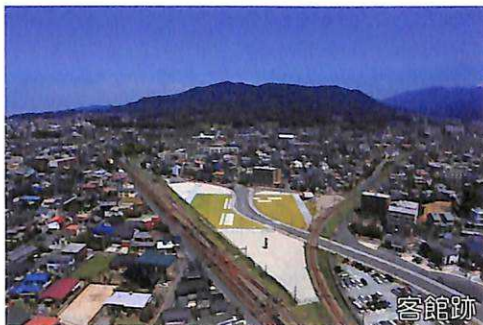
政庁の東にある月山丘陵は辰山ともよばれ、漏刻（水時計）があったとされています。その南東では、発掘調査で掘立柱建物とそれを囲う区画施設が見つかり、ここも役所の施設の一つと考えられています。



役所の施設と考えられる掘立柱建物

客館

大宰府政庁から南へ約900mの位置に客館跡があります。客館は外国からの使節団が滞在した施設です。発掘調査では南北に長い大型建物跡が見つかりました。また、中国の唐の白磁・青磁、古代朝鮮の新羅の佐波理（青銅食器）碗・皿・匙、日本の朱塗りの漆器、奈良三彩といった高級食器が見つかりました。



客館跡

（太宰府市の史跡シリーズ「客館跡」もご参照ください。）

- ※ 古代律令時代の役所、およびその遺跡に関するものは「大宰府」、行政的な表記については「太宰府」としています。
- ※ 蔵司地区は現在調査中です。整備した後、一般開放する計画です。